

近畿の野菜の概要






令和5年3月

農林水産省
近畿農政局

【野菜の品目】

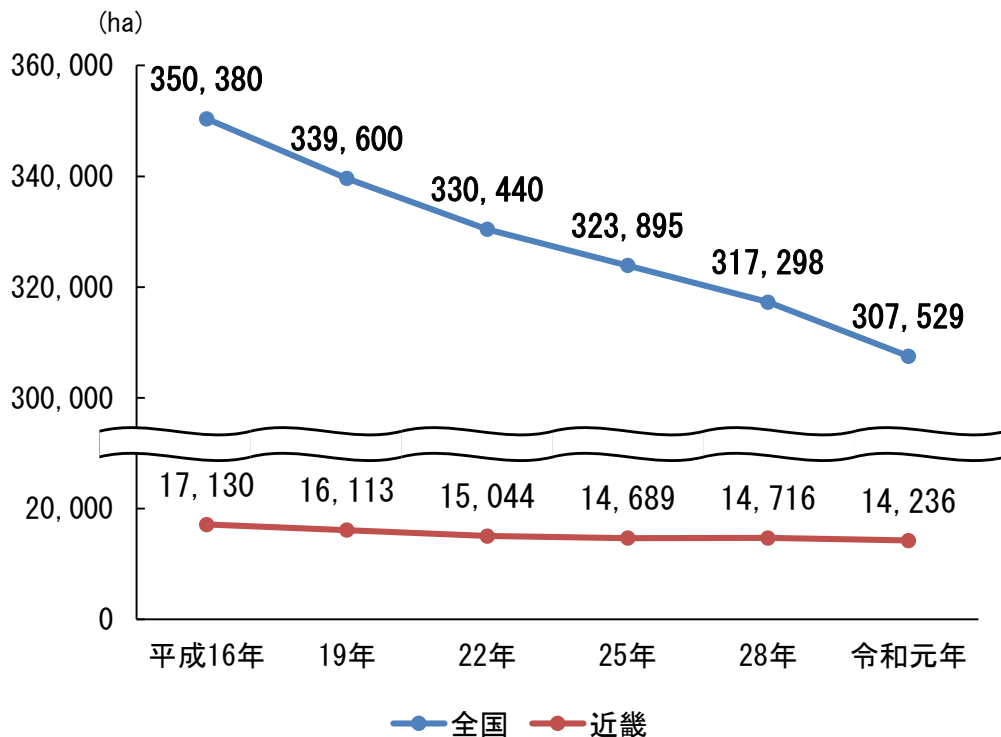
- 我が国では数多くの野菜が栽培されているが、生産量等が統計で把握されているのは約90品目。
- 全国的に流通し、特に消費量が多く重要な野菜を**指定野菜**として指定。

	葉茎菜類	果菜類	根菜類	果実的野菜	その他野菜
指定野菜 (14品目) 全国的に流通し、特に消費量が多く重要な野菜					
特定野菜 (35品目) 地域農業振興上の重要性等から指定野菜に準ずる重要な野菜	こまつな、みつば、ちんげんさい、ふき、しゅんぎく、セルリー、アスパラガス、にら、カリフラワー、にんにく、ブロッコリー、わけぎ、らっきょう、みずな、みょうが	かぼちゃ、さやいんげん、スイートコーン、そらまめ、えだまめ、さやえんどう、グリーンピース、にがうり、ししとうがらし、オクラ	かぶ、ごぼう、れんこん、やまのいも、かんしょ	いちご、メロン、すいか	しょうが、生しいたけ
その他特産野菜 (36品目)	うど、芽キャベツ、モロヘイヤ、もやし等	とうがらし、とうがん等	くわい等		マッシュルーム

1 生産動向

- 近年、指定野菜の作付面積は、減少傾向で推移。近畿管内における指定野菜の作付面積（令和元年）は14,236haで、全国の4.6%となっている。
- 近畿管内の県別作付面積シェアは、兵庫県が最も多く（46%）、次いで京都府（17%）、滋賀県（12%）、奈良県（9%）、和歌山県（8%）、大阪府（8%）となっている。

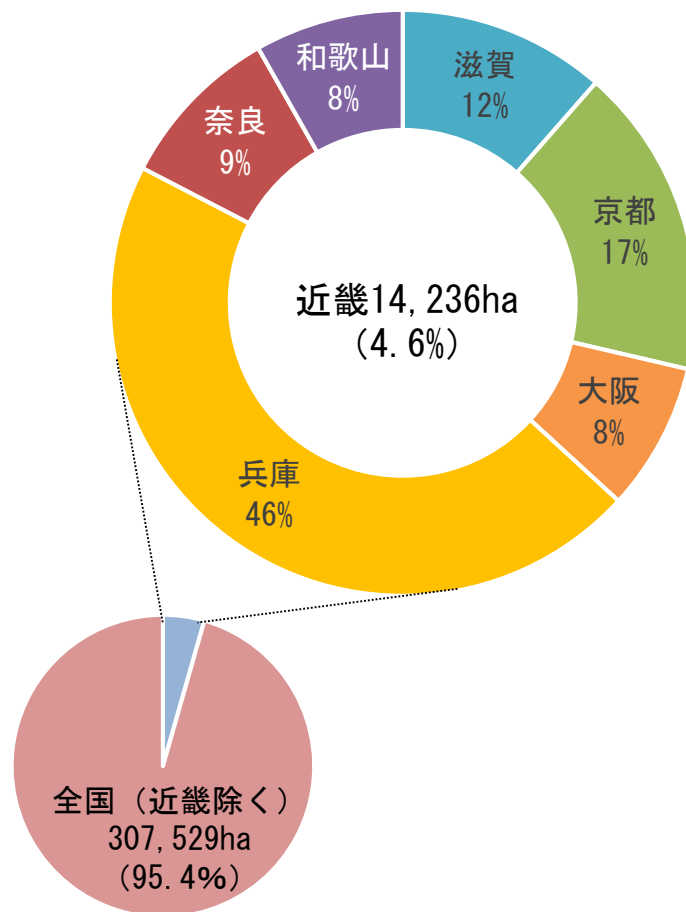
図1 指定野菜の年次別作付面積



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

- ・「野菜生産出荷統計」における全国調査は平成16年から3年に1回となっている（直近の全国調査は令和元年）。
- ・指定野菜とは、全国的に流通し、特に消費量が多く重要な野菜として国が指定する14品目の野菜のこと。

図2 近畿管内の作付面積割合（令和元年）



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

- 近畿管内の指定野菜の作付面積（令和元年）の種類別内訳は、葉茎菜類が63.1%、根菜類が20.6%、果菜類が16.3%となっている。
- 品目別に割合をみると、たまねぎ（15.4%）、キャベツ（13.6%）、レタス（10.0%）の順に高くなっている。

表1 指定野菜の種類別作付面積(令和元年)

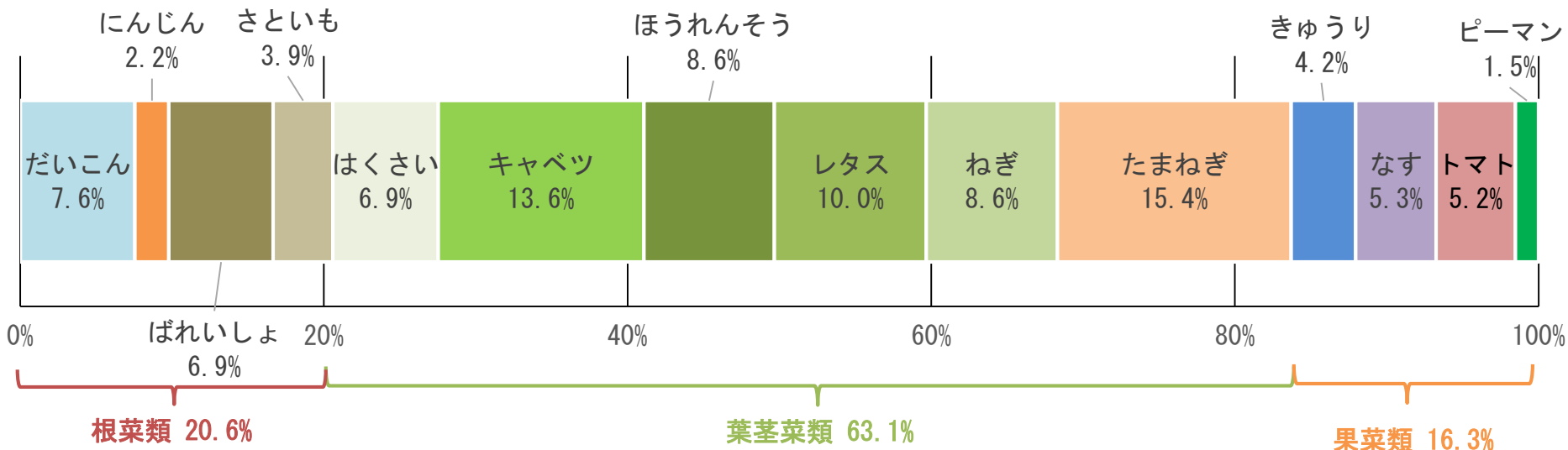
	根菜類計	葉茎菜類計	果菜類計	指定野菜計
全国計	133,400	140,700	33,429	307,529
近畿計	2,930	8,987	2,319	14,236
滋賀県	409	826	397	1,632
京都府	664	1,241	540	2,445
大阪府	165	803	197	1,165
兵庫県	1,033	4,765	720	6,518
奈良県	372	692	243	1,307
和歌山県	287	660	222	1,169

資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

【指定野菜】

- ・ **根菜類**：だいこん、にんじん、ばれいしょ、さといも
- ・ **葉茎菜類**：はくさい、キャベツ、ほうれんそう、レタス、ねぎ、たまねぎ
- ・ **果菜類**：きゅうり、なす、トマト、ピーマン

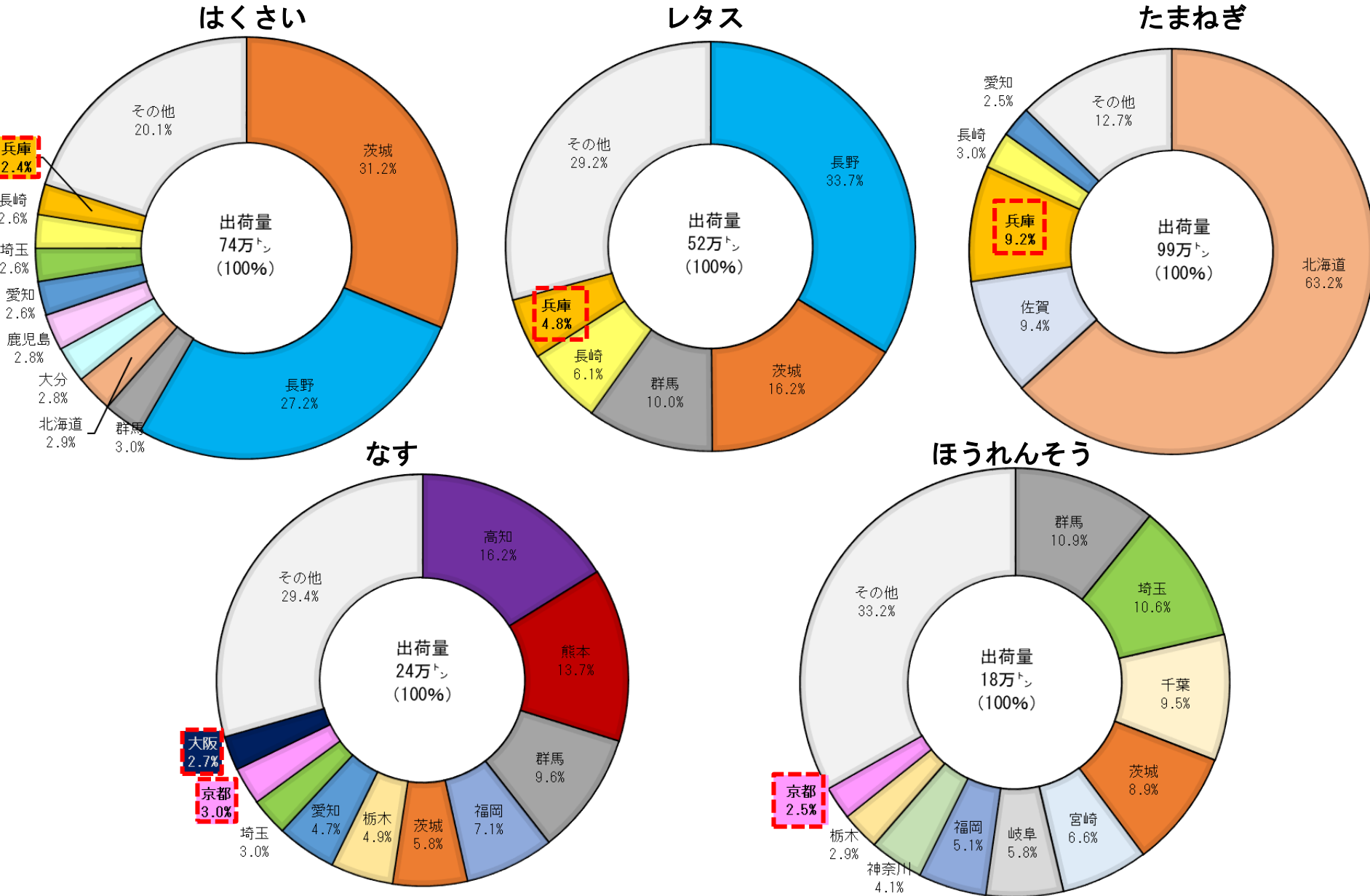
図3 近畿管内の指定野菜作付面積の内訳（令和元年）



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

○ 指定野菜における令和3年の品目別出荷量では、兵庫県のはくさいが全国10位、レタスが5位、たまねぎが3位、京都府のなすが9位、ほうれんそう10位、大阪府のなすが10位となっている。

図4 品目別出荷量割合（令和3年）

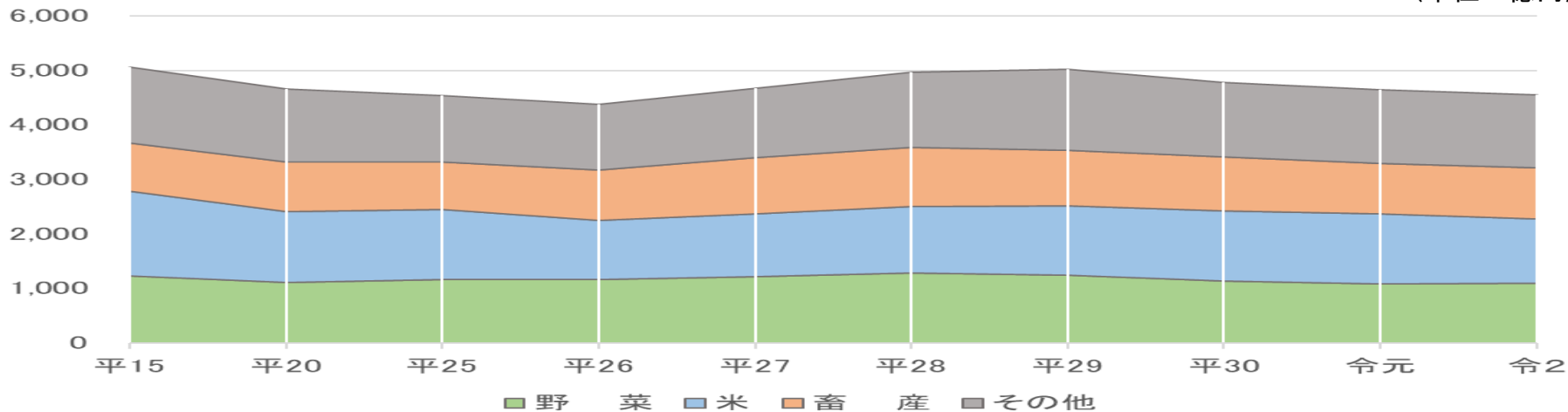


資料:農林水産省統計部「野菜生産出荷統計」

- 近畿管内の産出額(令和2年)は、4,549億円(全国の5.1%)を占めている。
このうち、野菜は1,099億円(全国シェア4.9%)で、近畿管内の農業産出額の24.2%を占めている。
- 農業産出額に占める野菜の割合を府県別にみると、大阪(45.3%)、京都(38.9%)、奈良(28.6%)、兵庫(23.6%)、滋賀(17.0%)、和歌山(12.8%)の順に高くなっている。

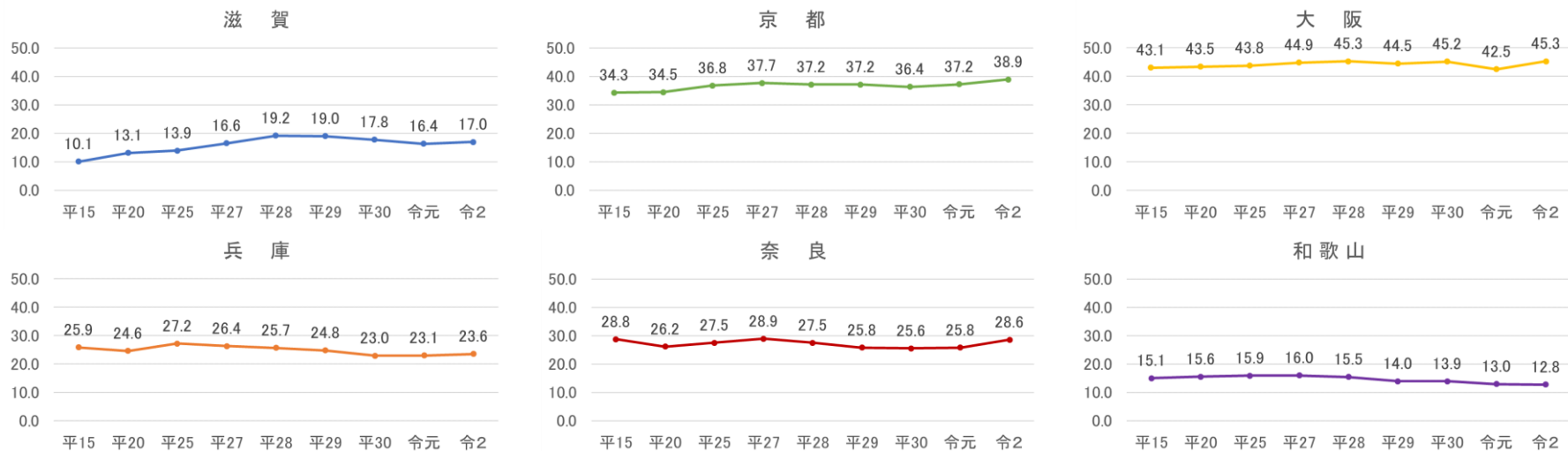
図5 近畿における農業産出額の推移(令和2年まで)

(単位:億円)



資料:農林水産省「生産農業所得統計」

図6 近畿管内6府県における農業産出額に占める野菜の割合(令和2年まで)



資料:農林水産省「生産農業所得統計」 5

2 流通動向

- 近畿管内の主要21市場における指定野菜入荷量（令和3年）は1,085,962 tであり、このうち近畿産は154,198tである。
- 品目別に見ると、重量ベースでは、キャベツ（17%）、たまねぎ（15%）、はくさい（13%）の順に割合が高く、金額ベースではトマト（18%）、ばれいしょ（11%）、たまねぎ（10%）の順に高い。

図7 近畿の主要野菜卸売市場における指定野菜入荷量の推移（重量ベース）（令和3年）

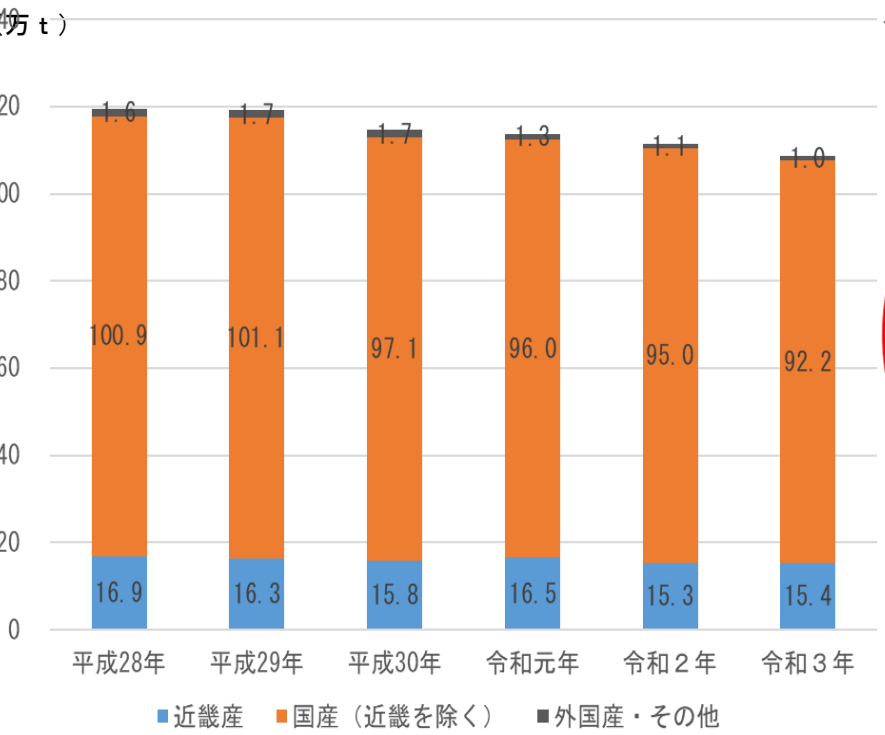
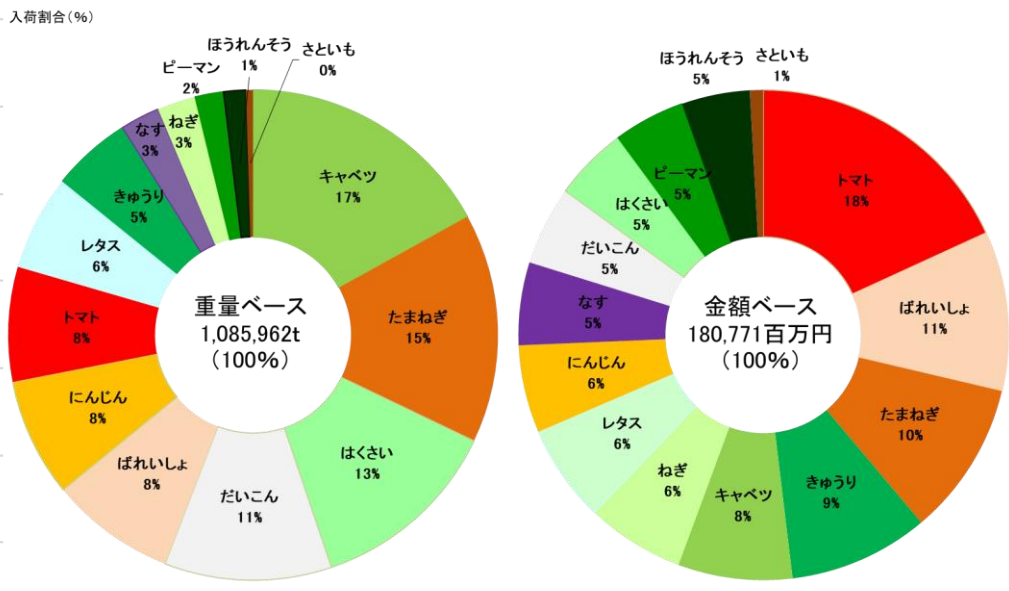


図8 近畿の主要野菜卸売市場における指定野菜の品目別構成比（令和3年）



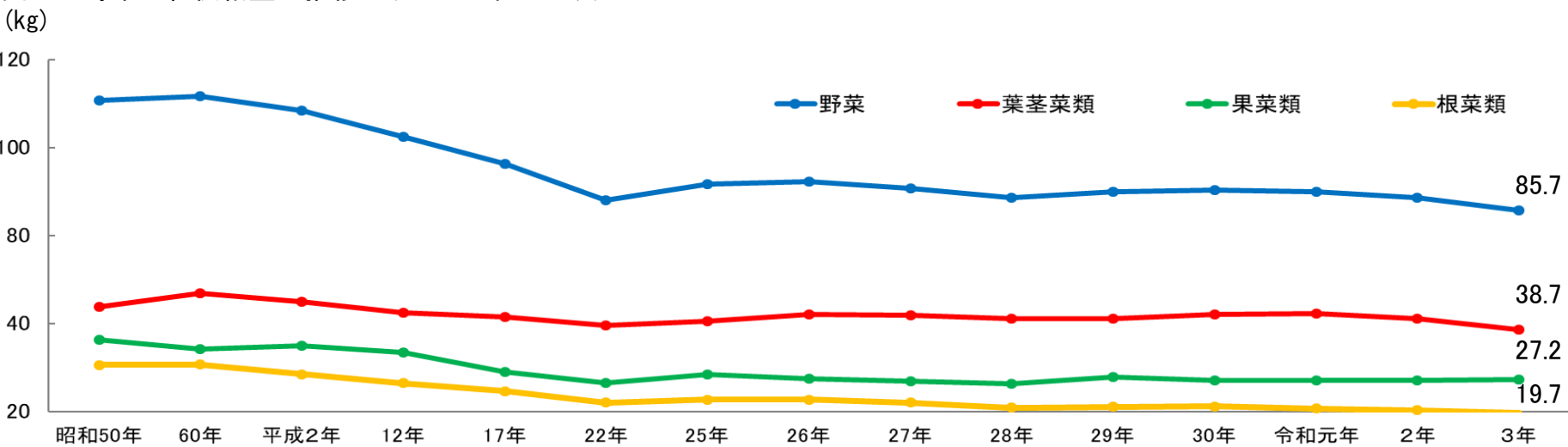
資料：近畿農政局「指定野菜の入荷量と価格」

注：四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

3 消費動向

- 全国の野菜の純供給量（1人1年あたり）は、近年では横ばいとなっている。
- 生鮮野菜の1人当たり年間購入量は、全国と近畿ともに近年では減少傾向となっている。

図9 野菜の純供給量の推移（1人1年あたり）



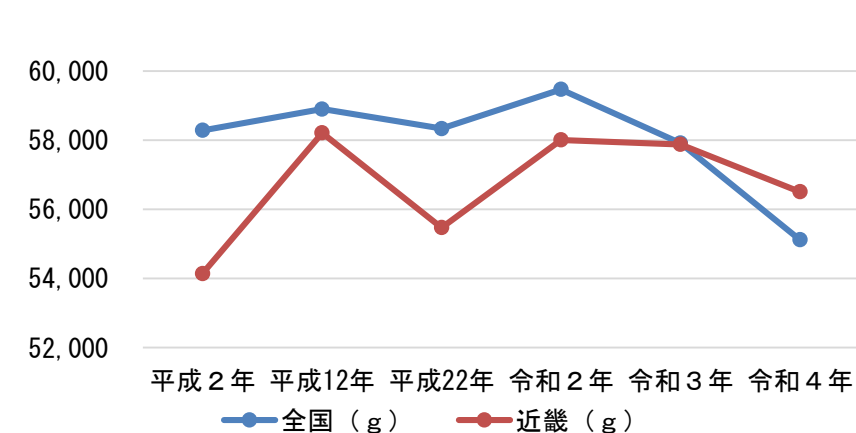
資料:農林水産省「食料需給表」
令和3年は概算値

表2 指定野菜(生鮮)の1人当たり年間購入量

		平成2年	平成12年	平成22年	令和2年	令和3年	令和4年
全国(g)		58,284	58,901	58,333	59,469	57,915	55,116
近畿(g)		54,141	58,211	55,469	58,005	57,877	56,508
指数	全国	100.0	101.1	100.1	102.0	99.4	94.6
	近畿	100.0	107.5	102.5	107.1	106.9	104.4

資料:総務省「家計調査」

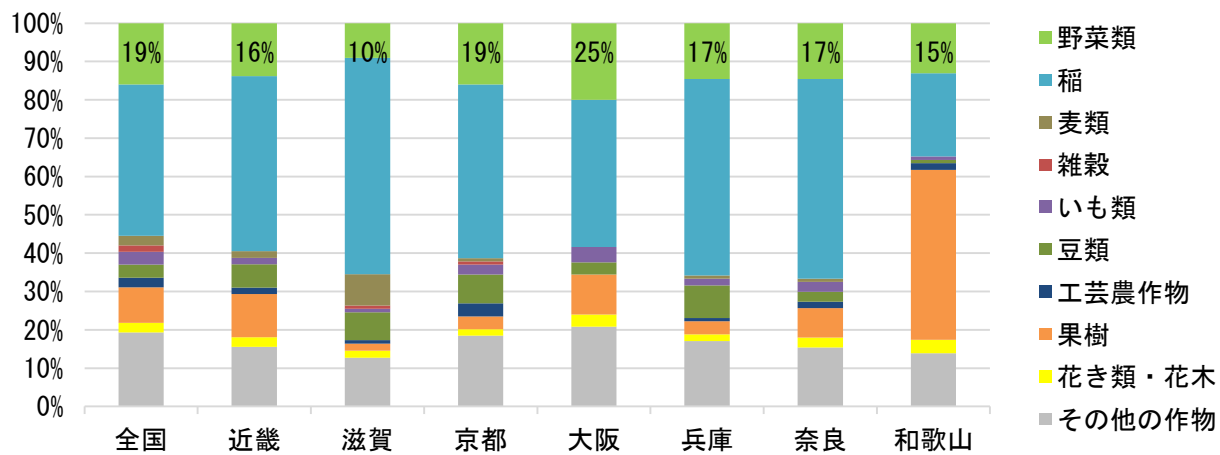
図10 指定野菜の1人当たり年間購入量の推移 (g)



4 農業経営体数

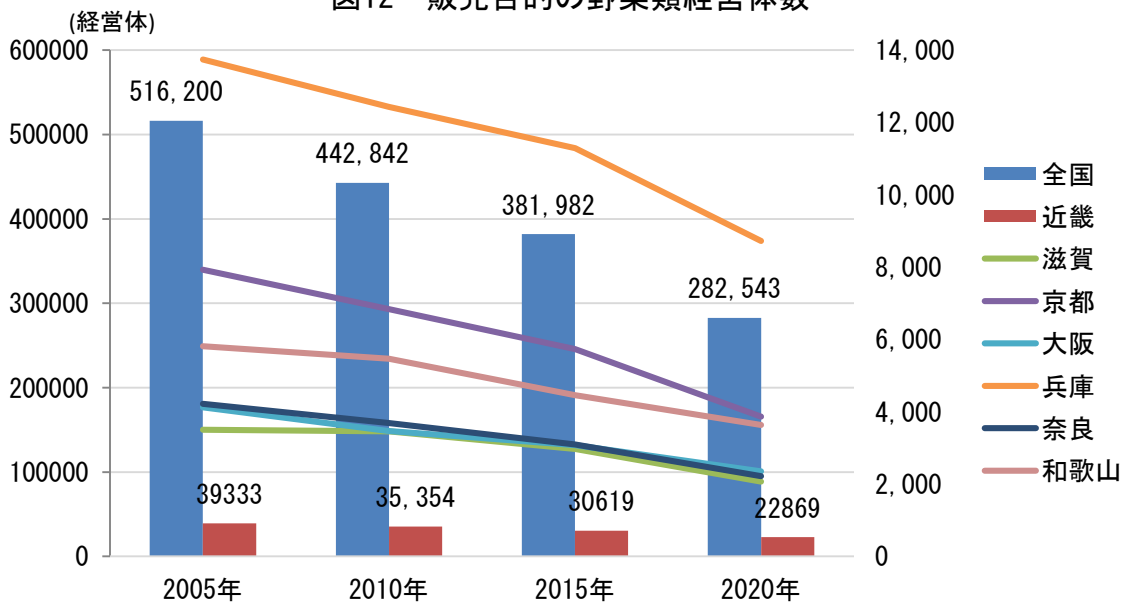
○ 野菜の販売農業経営体数は、全国、近畿ともに減少傾向。作物別で見ると、近畿の野菜類の割合は 16 % となっている。

図11 販売目的の作物別販売農業経営体数構成割合(2020センサス)



資料:農林水産省「2020農林業センサス」

図12 販売目的の野菜類経営体数



資料:農林水産省「2010世界農林業センサス」

近畿地域の指定野菜産地マップ

